

## 夢のつばさプロジェクト 2022年度 事業報告書

2022年4月1日～2023年3月31日

新型コロナウイルス感染症の流行も3年以上にわたり、2020年以降、宿泊行事を実施することができないまま現在に至っている。2022年度も何度も企画を立て、宿泊日程の短縮や代替の日帰り交流会への変更なども試みたが実施できなかった。学生たちもこうした中で活動を工夫し、オンラインや郵送物による働きかけが日常的に続けられて子どもたちや保護者との交流が行われている。

2023年3月の最終土曜日（2023年3月25日）になってようやく、「2021冬の交流会」以来の久しぶりとなる対面行事、「2023春の交流会」を実施することができた。

## 1. 2022年度の学生ボランティア体制とイベント

2022年度の学生スタッフは、新入の8名を迎えた。このうち2名は、夢のつばさプロジェクトで見守ってきた子どもである。学生代表が代替わりして、2022年度は東北大学の女子学生がボランティア学生代表を務めて、副代表をお茶の水女子大学生2名が担当するという3名体制となった。イベントが行われる際には、学生代表は頻りに事務局と打合せが必要になる。OBOGの話を聞いたり、お知らせの作成のために学生同士で話し合ったり、印刷・配送などにもかかわるため、地方在住の学生が学生代表を務めることはかなり負担になると思われた。学生たちの集まり・打合せやイベントの企画作りなどのために、代表が上京することもありうると思われ、その際の交通費などについての負担も覚悟したが、イベント開催が毎回見送られ、東京で学生が集まる状況は起こらなかった。さらに学生代表は「宿泊は無理でも、仙台で行う日帰り交流会が可能であれば行いたい」と、仙台在住の強みを生かして、会場の下見や予約等を積極的に行って、バックアップ策を用意してきた。2023年3月末の春の交流会は、久しぶりの対面行事となり、学生代表陣も初めての経験となった。

キャリアセッション 将来の仕事を考える企画	2022.7.5 19時～20時半	夢のつばさ学生スタッフ OB から、現在彼が社員となっている Google Japan 社のキャリアセッション開催の申し出があり、学生スタッフ、子どもたちが参加した。3名の社員から経歴や入社動機、今の仕事内容などの話を伺い、「働くとはどういうことなのか」「どうやって仕事を選ぶのか」などについて考えた。これは Google 社の社会貢献の企画であるが、夢のつばさの子どもたちへのキャリア形成企画として使えるだろうと、学生スタッフは意気込みをもって参加したが、夢のつばさの中学生、高校生（1年生）にはあまり現実味がなかったようで、社会人スタッフからは学生スタッフや OBOG の話を聞くほうが身近なのではないかという感想があった。今後、こうしたイベントを活かすために、どんな準備が必要か、日ごろ、どのような働きかけをすべきか、学生たちにとっても、良い経験であったと思われる。
夢のつばさプロジェクト 「真夏の夜のラジ	2022.8.20 19時～20時半	コロナの状況から、夏キャンプ再開は時期尚早であると判断し、代替として対面の1日交流会を企画した。しかしコロナ流行が収まらず、この対面企画も中止となったため、オンラインでの企画に変更した。 これまで子どもたちとの交流がほとんどない学生の代となってきているので、自分たちのことを知ってほしいと、Zoom を使って集い、大学の授

オ」企画		業のことや日常などについて、学生たち数名がラジオ形式で、それぞれの想いを語った。参加者も加わるフリートークの時間を設け、OBOG、社会人スタッフも応援して参加した。「アクティブ・ラーニングの良い試みだ」との評価もあって、学生たちにとって良い機会となった。
オンライン交流会 2022 冬のクリスマス企画	2022.12.25 14時～15時半	<p>冬の宿泊キャンプを募集したところ、すぐに15名を超える応募があったが、コロナが東北で増加したため中止となった。応募者の要望もあり、1日交流会に移行して行おうとしたが、これも実施できなかった。オンラインで、代替のクリスマス交流会を実施した。</p> <p>学生スタッフ、OBOG、社会人スタッフも、webではあるが久しぶりの顔合わせとなり、近況報告、ゲームを楽しんだ。</p> <p>いつもは『サンタクロース』から手渡されるプレゼント（(株)サンリオより提供）は事務局から郵送した。お礼のメールや近況報告が相次ぎ、「クリスマスにプレゼントが届き、大変喜んでいる。たくさんの方や団体が見守ってくださっていることを子どもたちに伝えた。」というメールもいただいた。</p> <p>対面宿泊行事の募集と中止、代替の1日交流会の広報・募集と中止、オンライン交流会の広報・募集と実施、と相次いで変更となったため、学生は書類の郵送作業に追われた。事務局も応募者へ携帯メールなどで周知・確認を行った。オンライン交流会は子どもの参加者が少なく、顔ぶれの固定化の傾向がある。</p>
2023 春の交流会	2023.3.25 13時～16時	<p>コロナ感染症がようやく収まりを見せた3月、春の交流会を急遽企画し、実施することができた。子ども7名、学生・OBOGスタッフ8名、社会人スタッフ1名、支援者1名が参加した。</p> <p>学生スタッフもここ数年企画立てがなかったために募集が遅れ、数名の子どもから、「アルバイトや先約が変更できず欠席」の連絡が入ったことが残念であった。当日、会は順調に進められ、近況報告やゲームなどで楽しい語らいが続いた。子どもたちも満足した様子で、保護者からも感謝の連絡が相次いだ。イベントに初めて参加された支援者から、企画、子どもたちの様子、学生たちの態度などについて高い評価をいただいた。</p>

## 2. その他の活動

### (1) 夢のつばさタイムズ

コロナで対面の活動が出来なくなって、オンラインの活動にも参加しにくい子どもがいるため、学生の紹介や、夢のつばさの様子を知らせるために、毎月、学生が発行する新聞を郵送している。毎回、それぞれの学生たちが学んでいる勉強を紹介するものと、夢のつばさの活動報告やイベントの紹介なども含めたレクリエーション系の内容を盛り込んだものと2種類を用意している。例えば、8月号では、東北から夢のつばさに参加した子どもの一人が、現在は夢のつばさの学生スタッフとなり、自身が学んでいる東京の大学の授業から、エピソードを掲載している。「重い飛行機がなぜ飛べるのか」という飛行機の翼の構造を解説するなど、子どもたちの興味を促すように工夫された内容は、私たち大人スタッフに

とっても楽しい読み物となった。また10月号では、数学科に所属する女子学生が、大学で学ぶ数学について紹介しており、子どもたちが身近な学生の将来への夢を知り、刺激をもらえるものになっている。

## (2) 交換日記

一昨年度から続いている「グループで手紙の交換を行う企画」を今年度も継続実施した。(1)と同様、オンライン企画に参加できていない子どもたちにも学生とのつながりを作りたいという思いから生まれた企画である。交換日記開始にあたっては、「だれかを傷つけるようなことは書かないこと、根拠のないわさなどが独り歩きしないよう心を配ること、個人情報を守ることに周知し、外部の方に見せたり、持ち歩いたりして紛失しないようにすること」などのルールを共有している。一時、あるグループで交換日記の所在が分からなくなる事態が起こったが、ご家庭内で見つかり事なきを得た。再度注意喚起して続けたい。少しずつ当初の意欲が減じている様子なので、学生スタッフは今一度のリニューアルを考えているとのことである。

## (3) 夢のつばさスタディ

高校受験の子どもたちに、大学生数名がチームを組んで、オンラインによる個人指導で勉強を教える『夢のつばさスタディ』は、夢のつばさの学生、OBOG有志のボランティアで続けられており、毎年、子どもや保護者に好評である。本年度は、唯一の中3生、1名に Zoom を使用して勉強面、精神面でのサポートを行っている。

担当の学生、OGOB スタッフは4名で、ほぼ週1回、定期的に継続されている。講師側からは「子どもと定期的に会える貴重な機会となっている」「意欲的に取り組む姿が見られて嬉しい」「心の交流をはかることができている」という感想が得られている。子どもは講師となっている学生を大変信頼している様子がうかがえ、オンラインのイベントなどにも積極的に参加している。定期的な報告書の提出も行われ、保護者からも感謝されている。

この個人指導は、学生たちがボランティアで行っているため、4月初めに、「時間的にも負担は大きいのではないかと、要望があれば学生にアルバイト代を出すことも考慮したい」と相談したところ、学生たちからは、「夢のつばさの他の活動と同じように考えている。全体がボランティアベースの活動であるため、特にこれだけアルバイト代を補填してもらう必要はないと考える」との回答があり、無報酬で続けられている。

## (4) もくもく会

時間を設定して学生スタッフが Zoom を開き、やりたい勉強を自己申告して、その後は黙々と取り組み、最後にまた報告するという、昨年度から続いてきた学生企画である。

馴染みのある学生と顔が合わせられる楽しみもあり、勉強の習慣づけになるのではないかと考えて実施して来たが、コロナで会えない期間が数年にわたり、学生も交代して新しい顔ぶれとなって、この活動の良さが薄れてきているのではないかと懸念があり、夏休み後は中断している。

## 3. 奨学金について

2022年度、夢のつばさではそれぞれ大学や専門学校に進学している8名の子どもたちに奨学金を授与することができた。2023年度は2名に授与が決まっている。東日本大震災で被災した子どもた

## 第 1 号議案

ちに対する奨学金は、目的が学費・教育費用と決められているものが多いと感じ、夢のつばさの奨学金は、毎月 1 万円と少額ではあるが、特に学業用と用途を定めず、返済不要としている。学生生活の中で趣味や自己研鑽に自由に使ってもらいたい、また友人と遊びに出かける際や、何かの集まりで飲食費等が必要な時にも、ためらわずに参加できるように、という想いで用意している。

専門学校に進んだ男子からは、「奨学金は大変助かっています。お小遣いが足りないときに使っています。残りは貯金して、お金がまとまったら大きい買い物をしたいと思います。」という連絡が来ている。彼は、育ててくださった叔母様が現在支えている、お父様が残した工務店を継ぎたいと頑張っている。また夢のつばさの大学生たちに触発されて、将来、福祉関係のカウンセラーとして仕事をしたいと希望している大学生男子からは、「参考書を買う際や、友人と遊ぶ時に役立てていて、楽しい時間を過ごすことが出来ています。」という報告があった。震災でお父様をなくされて不安定なときに、夢のつばさの活動が大きな支えになったことが、今の彼の進路を決めたとのことであった。

今年度から東京の大学で学び始めた女子からは、「趣味の読書の本を購入したり、新しい服や靴の購入にあてたり、長期休みの際の友人との旅費にあてたりなどさまざまな場面で活用させていただいています。支援者のみなさまがお心にかけてくださっていることを感じ、自分の好きなことに使わせていただけることにとっても感謝しています。いつも本当にありがとうございます。」というメールが届いた。彼女は、将来、観光に関連する仕事に就きたいという希望を持って、語学を学んでいる。頑張っただけ道を切り拓いていく若い人たちに、奨学金授与ができるのも、多くの個人ご寄付者・団体のご支援の賜物と、スタッフ一同、心より感謝申し上げている。

## 4. 総括

2022 年の夏の選挙では社会を揺るがす大きな事件が起こり、人々を驚かせた。コロナ感染症の影響下では、大学での授業がオンライン化したりグループ活動が制限されたりして、皆で集まって気の置けない話に興ずることも難しくなっていると言われている。各大学でも、スポーツや音楽などのサークルを装って、真面目な学生を宗教団体や詐欺まがいの投資話に引き込む反社会的団体から学生を守るために、注意喚起に努めている状況がある。夢のつばさでは、心優しい学生たちが集って良い仲間となり、子どもたちを思いやり、様々な計画を立てて活動しているが、こうした社会情勢から、警戒心が高まって参加してくれる学生が減ってしまわないか案じている。キャンパス内でも、大学内に集う学生が減っており、どこの大学でも、大学生の意欲低下が目立つという。

そんな中で、夢のつばさには、本年度は 8 名の新入の大学生があったことは大変嬉しいことであった。人々の善意の下で成り立っているつながりを持ちたいと思う大学生も多いのではないかと感じ、その学生たちが十分に良さを発揮し、喜びを感じられる活動のチャンスがあることを願ってきたが、なかなかコロナの流行が収まらなかった。この冬の活動には、募集とほぼ同時に 15 名もの応募があったこと、ある中学生の子どもとその祖母の方から、夢のつばさのキャンプを待ち望む強い希望が寄せられていたこともあって、宿泊日数を減らしても、子どもたちと大学生ボランティアの対面行事の機会を作ろうと、宿泊施設管理の(株)ブリヂストンの担当者にご無理をお願いして 11 月半ばまで実施の決定を延ばしていただいた。

しかしながら宿泊活動の再開を断念したのは、もちろんコロナの流行が東北で特に大きくなったことによるが、室伏きみ子先生が早くから懸念されてきた、コロナ感染症罹患後の後遺症の問題も背景にある。コロナ感染症から回復した後にも、罹患後症状がみられる場合があることが明らかになってきて

おり、海外での45の報告（計9,751例）の系統的レビューでは、COVID-19の診断等の後2カ月あるいは、退院等の後1カ月を経過した患者の72.5%が何らかの症状を訴えているという（出典：厚生労働省「新型コロナウイルス感染症診察の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント 第1版」）。

年齢や既往症（基礎疾患）の有無、コロナ発症時の重症度、変異株の種類に関わらず相談が寄せられており、コロナに罹患した全ての患者に起こる可能性があると報告されている。後遺症として、せき、倦怠感や嗅覚・味覚障害のほか、記憶力低下、集中力低下やいわゆるブレインフォグ（物忘れ・考えがまとまらない頭にモヤ（霧）がかかったような状態）の神経症状の報告がある（出典：第88回 東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議資料、令和4年5月26日）。人の話や、書いてあることが理解できなくなる、覚えられない、決断力の低下、優先順位が付けられない、集中力が切れるなどの症状が続く。

オミクロン株の後遺症では味覚・嗅覚障害が出にくいものの、咳や倦怠感、ブレインフォグなどの認知機能低下、気分の落ち込みを起こしやすい、若い人にも子どもにも起こると報告されている。こうしたことが起こる確率やどんな人に起こるのかは、まだはっきりしないが、数か月も、もしかして年単位で、無気力になったり、勉強や運動に支障を招いたりすることがありうるとすれば、「子どもたちの幸せのため、将来の力を養うために行う夢のつばさの活動」にとってその代償は大きい。参加する子どもたちや学生たちに、こうした結果を招くリスクは避けるべきという結論となった。

宿泊行事の募集や中止や代替行事のご案内など、保護者の方と携帯メールを交換することも多く、数名の方と親しくやり取りすることができた。現在、お子さんの一人が大学生となった保護者の方からは、「自分たちの住む周りに大学に進学した子はおらず、補習塾はあっても大学進学塾はない。そんな中で大学進学を頑張ったのは、夢のつばさの活動があったから。」というお話を伺っている。またほかの保護者から、「子どもたちが父親を亡くして動揺していたときに、夢のつばさの活動に参加できて本当に良かった。子どもたちがそれぞれの進路を決めたのは、夢のつばさからの影響が大きい。親子で感謝している。今回はできなくて残念だったが、子どもたちも、後輩たちの行事のお手伝いに参加したいと言っている。」というメールもいただいた。

2019年冬キャンプでは、初めて参加した子どもたちが数名あったが、その直後からコロナの感染拡大で対面活動がほとんどできなくなってしまった。その子どもたちがこれまでの参加者のように夢のつばさと深いつながりを作れないままになってしまったことがとても心残りであるが、その中で、時々事務局にお電話をくださる保護者（祖父母）の方がいらっしゃる。お祖母様はお孫さんの子育てに苦労されているご様子で、お孫さんが2019年の冬キャンプでとても楽しんだことを喜んで、心待ちにしてくださっている。お孫さんも1回しかキャンプに参加出来ておらず、3年の間に学生も変わってなじみもないため、オンラインのイベントや1日限りの交流会には、参加しにくい様子であった。今回、2022年冬キャンプ再開に早速申し込んでくださったが、中止になってがっかりされていた。

これまで、学校になじめず問題行動を起こすといわれていたり、反抗的で保護者を悩ませたりしていた子どもが、夢のつばさに毎回やってきて、様々なプログラムを楽しみ、大学生と気持ちをつないで居場所を得た様子を見てきたので、「コロナの蔓延がなければ少しは助けになったかもしれないのに」との想いや、「3年の空白は長い」と形容しがたい想いに悩まされている。お祖母様のお悩みをただお聞きするばかりではあるが、時々くださるお電話に丁寧に対応したいと努めている。

クリスマスキャンプを中止し、さらに現地を短時間訪問する活動も中止したため、(株)サンリオのご寄附によるプレゼントを事務局から郵送した。「クリスマスにプレゼントが届き、大変喜んでいる。たくさんの方や団体が見守ってくださっていることを子どもたちに伝えた。」というメールもいただいている。ご支援くださる方々からは、「なかなか直接支援ができない状態が続きますが、春を待ちましょう。

## 第1号議案

皆さんもおからだをお大切に。」といったお頼りも届き、お気持ちの優しさ、強さに励まされてきた。3月末には、待望の対面行事が実施できたが、3年間離れていたこともあって、学生たちは切符の手配や会計作業など戸惑うことも多かった。それでも子どもたちと接する喜びは大きく、学生スタッフも高揚していた。また以前よりイベントに直接参加したいと願っておられた支援者の方に、社会人スタッフとして今回ご一緒いただき、「とてもよかった、学生スタッフがすべて考えて仕切って、それを事務局が支える様子に感心した。子どもたちの笑い声に救われる思いがした。ありがとうございました。」と評価いただいた。

震災から10年以上過ぎても、夢のつばさの活動の価値は少しも減じていないと感じている。今後も子どもたちのために、より良い方策を探り、この貴重な活動を続けていきたいと関係者一同、気持ちを新たにしている。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。